

感熱紙

感熱紙とは、紙の表面に熱に反応して変色する薬品を塗布した紙で、主にレシートやひと昔前にはファクシミリの記録紙に利用されていました。熱を加えるだけで発色するため、インクリボンやカートリッジなどが不要で、現在でも根強い需要があります。

ところが感熱紙には一般の紙ではあまり問題にならない“使用期限や保管条件”があり、注意を怠ると印字の際にトラブルが発生したり印字が消えてしまっ

たりするケースもあります。これは文字通り印字後も熱に弱く、他にも光・水分・油・アルコールや薬品などと相性がよくないため、湿度や室温の高い場所は避けて冷暗所での保管が推奨されています。

印字された感熱紙を受け取る側として、①保管や携帯は上記の影響のない場所に。②やむを得ない場合は印字面を内側にして折ったり光を当てたりしない。ということをお忘れなく。

雑記帳

エルニーニョ現象とラニーニャ現象

猛暑や冷夏、また暖冬など気候や陽気に関連して耳にする言葉に「エルニーニョ現象」「ラニーニャ現象」があります。ただし、聞いたことはあるが説明となると、?という方が大多数でしょう。

「エルニーニョ現象」とは、南米ペルー沖の海水温が例年より高くなり、地球全体の気候に影響を与える現象のことで、わが国では「暖冬」「長梅雨」「冷夏」などの影響があります。一方「ラニーニャ現象」は、逆に同海域の海水温の低い状態が続き、日本では「夏

らしい夏」「厳しい残暑」「寒気が入りやすい」などの影響があるとされています。

海水温の変動が地球規模の大気や気流の流れに影響を与えることは分かっていますが、残念ながらその海水温の変動がなぜ現れるかについては解明されていません。近年の地球温暖化の問題も絡み、この先も地球規模での異常気象や災害の発生が懸念されています。

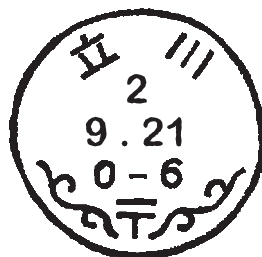
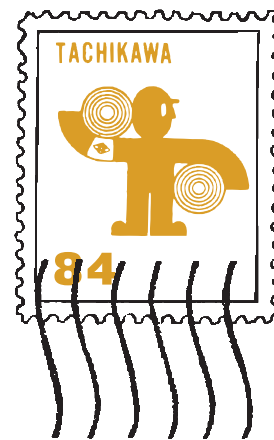


残高確認書返送のお願い

経理部より重ねて皆様にお願ひ申し上げます。

弊社は8月が決算月となっております。つきましてはお取引を頂いているお客様に、7月31日付または8月20日付の請求書と共に「売掛金等残高確認のお願い」を郵送させていただきます。

まだご返送いただいていないお客様は、お手数でございますが、金額をご確認いただきご記入ご捺印のうえ、ご返送くださいますようお願い申し上げます。なお、目隠しシールを同封させていただいておりますので、どうぞご利用ください。



OKピクシード01
A判 33kg
を使用しています。



発行/株式会社 立川紙業 〒190-0023 立川市柴崎町2-7-6 / TEL: 042-527-6111(代)

FAX: 042-528-0080 / HP: www.kami.jp / MAIL: tp@kami.jp



甲子園交流試合



荒川 直人

2020年甲子園高校野球交流試合が8月10日から17日迄の計6日間行われました。皆さんご存知の通り、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため中止となった春の選抜高校野球大会に出場予定であった全32校の救済処置として高野連が主催、朝日新聞社と毎日新聞社の後援で開催されたもので、勝ち上がりはなく全チーム各1試合のみの16試合が行われました。

この交流試合開催については賛否両論があり、クラスターの発生や開催地である関西への感染拡大についての懸念など、開催自体や高野連に対するバッシングも多かったと聞きます。また勝ち上がりはもちろんのこと、優勝校もない形だけの試合形式では、まるで子どもだましではないかなど、批判の声も多かったようです。

それに加えて、例年であれば注目を集めるブラスバンドの応援もなく、まるで練習試合じゃないか!?と私も当初は想像していました。しかし実際にテレビで試合を観ると、大袈裟かもしれませんが、例年の大会を上回る気迫のこもったプレイや表情、この1試合にすべてをかける球児たちの強い気持ちを感じました。新型コロナウイルスの

感染拡大の影響で、様々な大会が中止となって以来、選手たちがこれまでずっと我慢していたものをすべてぶつけているかのような……。

試合後のインタビューでもそのような話が多く、涙ぐむ選手も見られました。またこの交流試合の開催に感謝の言葉を述べる選手もいて、見ていて気持ちの良いインタビューでした。

一方このコロナ禍の状況で開催を決断した主催側にも相当な苦労があったはずです。マスクや消毒、ソーシャルディスタンスの確保など、ありとあらゆる感染防止対策に神経を払い、勇気ある開催の決断をされた高野連はじめ関係者の皆さんに謹んで敬意を表したいと思います。

いまだに収束の見通しが立たず、いつからかアフターコロナではなく、Withコロナと言われるようになってつつあります。この先コロナとどのようにして向き合っていくのか、この交流試合から学ぶべきことがいくつもあったように思います。因みに選手たちの甲子園の土の持ち帰りも、感染拡大防止のため禁止だったそうです。

(弊社営業部1課長)

今回のコロナ禍は、それ以前からのいわゆるペーパーレス化の波により、ただでさえ厳しい経営を強いられていた紙業界の流通各社にさらなる追い打ちをかけ、いまやその状況は惨憺たるものとなっている。衛生用品やパッケージ用段ボール等が主要取扱品種であるごく一部の会社が、コロナ禍とstay homeによる“巣ごもり”特需の恩恵を受けているが、これも限られた数社でしかも先の見通しは全く未知数とのことだ。

いずれにしろ紙業界全体が、今回のコロナ禍によりかつて経験したことのない危機的状況を迎えていることは間違いなく、これは弊社も例外ではない。新しい販路や商品の開拓等あの手この手の対策で補っているものの、先の緊急事態宣言以降の4月～8月の売上は、昨年実績比で平均72.1%という落ち込みだ。紙流通業界各社の利益率は主たる取扱商品にもよるが、元来他業界と比べても低い部類に入り、弊社では売上が対前年比85%を切ったら赤字に転落する。

東京商工リサーチが8月18日に発表した『第7回新

型コロナウイルスに関するアンケート調査』では、Q「コロナ禍が長引いた場合の廃業を検討する可能性」について尋ねたところ、8.5% (30万社以上)の中小企業が廃業を検討しているとのこと。このうち1年以内の廃業と回答した企業は44.9%で実に13万5千社もの企業が差し迫った廃業の危機に瀕していることになる。7月の売上が前年を下回った企業が82.2%、4カ月連続で8割を超えた。年内に単月で半減する可能性ありと回答した企業は44.6%を数えた。

今回のコロナ禍は、2008年のリーマンショックをはるかに超える影響を各方面に及ぼしている。各種の助成金・補助金・融資制度も利用し、何としても生き残らなければならない！それは日々ご注文をいただくお客様のために、地域や社会のために、そして会社で働く社員とその家族のために、会社存続をかけた日々の経営が続く。この状況を社員全員が共有そして自覚し、一致団結することが今一番大切だと考えている。

(文責/橋詰亨)

今月の使用紙 OKピクシード01 (ゼロワン)

今月のTP通信は王子製紙(株)の『OKピクシード01(ゼロワン)』を使用しています。

OKピクシードシリーズの後継紙として、生産工程・原料・薬品の見直しを行い「1から出直す」という意味を込めて01(ゼロワン)の名称となりました。優れた印刷光沢、低密度、不透明度を実現し、全ての米坪でしっかりとした紙厚を保證する高上質微塗工紙です。

■規格

g/m ²	A判 625×880			四六判 788×1091			B判 765×1085		
	連量(kg)	T目	Y目	連量(kg)	T目	Y目	連量(kg)	T目	Y目
60	33.0		●						
65	35.5		●	56.0			54.0	●	
75	41.0	●	●	64.5		●	62.0	●	
85	46.5	●	●	73.0		●	70.5	●	
93	51.0	●	●	80.0		●	77.0	●	
105	57.5	●	●	90.5		●	87.0	●	

RECOMMENDED BOOK

「今月のお手元本」内藤和さんとの思い出 その3

(TP通信編集室)

本紙「今月のお手元本」に連載をお願いしていた故内藤和様を偲び、その足跡を振り返る連載の第3回目をお届けいたします。既報の通り、このTP通信に「今月のお手元本」の連載をお願いしておりました内藤和様は、今年の春還らぬ方となってしまいました。

先月号・先々月号でもご紹介しましたが「今月のお手元本」の連載は、今から5年前の2015年11月21日発行の412号から始まり、2019年11月21日発行の460号までの4年にわたり、数えること44冊の「お手元本」をご紹介いただきました。先月号では、その44冊をあらためて一覧にさせていただきましたが、その中からTP通信編集室がピックアップした、特に印象深い「今月のお手元本」について振り返りたいと思います。

2011年3月11日という日は、私たちにこの先どのような日々が訪れようが、決して忘れることのできない日です。あの悪夢のような出来事から来年には早や10年が経とうとしています。2017年9月発行の434号でご紹介いただいたお手元本は、東日本大震災により壊滅的な被害を受けた日本製紙石巻工場が翌2012年8月に奇跡ともいわれる完全復興を成し遂げるまでの壮絶な闘いを追いかけたノンフィクション『紙つなげ!彼らが本の紙を造っている 再生・日本製紙石巻工場』(早川書房)でした。著者はノンフィクション作家佐々涼子氏。

この日本製紙石巻工場からは、月産8万トンの印刷用紙が世の中に送り出されていましたが、この見事な復興の影には「製紙メーカーとしてお客様への供

給の停滞を最小限に止めなければならない」という強い思いがあったから…というお話をお聞きしています。

東日本大震災では、製紙業界ではこのお手元本に取り上げられた日本製紙石巻工場のほか、いくつかの工場が被害を受け、不幸にも亡くなられた方もいらっしゃるといふ情報が、早くから立川紙業にも届いていました。もちろんテレビや新聞をはじめとするマスコミを通しての情報も目や耳にしておりましたが、取扱商品である「紙」の供給責任のある弊社では、まずお客様にご迷惑をおかけしないよう商品或いは代替商品の確保を最優先に、製紙メーカーや代理店とのやりとりで忙殺される毎日が続いていました。この本が出版され、ページをめくると震災後のそんな慌ただしい日々を思い出し、また世の中のためにこれほど重要な「紙」を扱う業界の一員として携わっていただけることをとても有難く、また誇らしく思います。

「最後に、本作との出会いを与えてくださった、立川紙業の橋詰社長に感謝いたします。紙、万歳！」

434号の今月のお手元本の文末を、内藤和様はこのような結んでいらっしゃいますが、ご紹介いただいた44冊の中でもこの1冊は最も感動と共感を覚えるお手元本でした。「今月のお手元本、万歳！」です。

余談になりますが、この「紙つなげ!…」をもとにドキュメンタリードラマも制作され、テレビ東京の開局50周年特別企画番組「池上彰のJAPANプロジェクト〜ニッポンの底力スペシャル〜」内でテレビ放映されました。